

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

研修会記録

第 6 号

令和5年 12月 6日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

11月 1日 (水)

提案 北沢 宏 先生 (間門小)

【会 場】

平沼小学校

司会 谷川 知栄子 先生 (日枝小)

記録 増田 哲平 (西本郷小)

1 提案内容 単元名

単元名「市の様子と移り変わり ～埋め立てられた海と人々の思い～」

2 検討したい内容について

○研究会主題について

視点①子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

子どもたちの問いを大切にしたい

・学力は、市の平均より低い。資料の読み取りも三分の一くらいしかできない。

→ 「こんなことが分かった。」を実感できるような授業にする。

→ 一つのもので、みんなで話し合い学習を深める時間にしたい。

そのためにも

八聖殿見学だけで、単元を見通す学習問題「間門のまちは、どのように変わっていったのかな。」に、たどり着けるか心配。

→ ある程度、教師が児童の思考を引っ張っていく必要があるそう。

視点②個を生かし、協働的に学びを深めるための手だて

様々な視点で材を考える 「どうして」を深める資料の提示のタイミング

・根岸湾埋め立て事業を行政と住民の2つの視点で考えていきたい。

→ 海苔養殖をしていた「Iさん」との出合わせ方、話や体験の内容を効果的にしたい。

→ 埋め立てたことによる「間門のまち」の変化を読み取るような資料を使うことで、行政側の立場で、考えることができるのではないかな。

そのためにも

本気の学習問題「多くの人たちが生活に使っていた海をどうして埋め立てたのかな」は、適切か検討したい。

3 協議会

○資料 (土地利用図) について

実践提案で紹介された、土地利用図を重ねていくような見せ方をすることで、間門のまちの変化について、資料を読み取ることができるようになるのではないかな。

○単元を見通す学習問題「間門のまちは、どのように変わっていったのかな。」について

・「どのように」という言葉を子どもから出すのは難しい。3年生の段階では、教師側で言葉を加えたり、子どもたちのつぶやきや言葉を、「学習問題」にしてあげたりすることも大切である。

- 「どのように」とは何かを教師側が、明確にする必要がある。
 - 経過に目を向けてほしい。少しずつ「間門のまち」が変わってきたことに気付くようにしたい
 - 「なぜ」も大切にしていきたいが、変化した明確な理由について資料や事実が足りていない。

○本気の学習問題「多くの人たちが生活に使っていた海をどうして埋め立てたのかな」について

- 「どうして」は難しい。社会科として、資料や事実から根拠をもって話し合いを深めてほしい。そのためには、埋め立て前後の変化が分かる資料が必要。何ができ、何が増え、どのように豊かになったことが分かる資料があるよい。（人口、駅、工場、石油コンビナートなど）
- 海苔養殖をしていた「Iさん」には、本時に出合わせる。当時の思いや、生活などについて聞く。また、埋め立てられたことを今現在どう思っているのか。前向きな話もしていただきたい。
- 「埋め立てに賛成か、反対か」など、埋め立てについて立場をはっきりとさせて、話し合いをすることで深まっていきそう。実際に埋め立てられているので、話し合いの流れや発言など、注意する必要がある。
- 横浜市発展のために、埋め立てられ工場ができた。埋め立てられたことで、「間門のまち」が豊かになったという事実を、前時までの資料から読み取れていることが大切。そのうえで、当時の住民（Iさん）の思いや生活について考えることができれば、話し合いが深まりそうである。

○授業展開について

- 間門小だからできる授業展開であることを大切にしてほしい。だからこそ面白い。
- 本時は、結論を出す時間にせず、「工場の埋め立てが間門のまちの発展につながったかどうかを学習しないとい分からない」と子どもが次時の見通しをもつような時間になるとよい。

文責 北沢 宏（ 間門小学校 ）